

## 廃棄物処理の現状について

一宮市環境部

## 1 一般廃棄物の現況

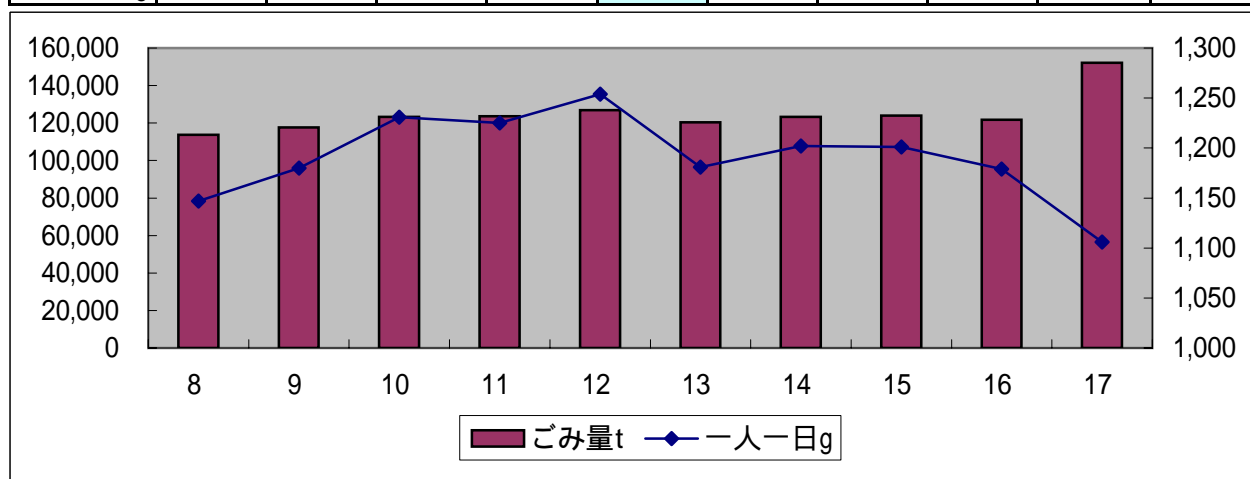
## (1)ごみの排出状況

ごみ処理量は年々増加傾向にあったが、平成13年度からは減少に転じた。平成12年度にごみ袋を透明・半透明に指定した結果、収集可燃ごみが約10%減少したが、粗大ごみ有料化に伴う駆け込み需要があったため、全体ではその効果が反映されなかった。平成13年度は、粗大ごみ有料化による処理量の減少が見られ、平成12年度からの収集可燃ごみ量の減とあいまって全体で、前年比約5%の減が図られた。その後は横ばいの状況が続いている。

平成17年度は尾西市・木曽川町との合併により、新一宮市として152,220tが排出されている。一人一日当たりのごみ量は平成14年度からは毎年減っており、平成17年度は1,106g/人・日で、平成12年度の1,254g/人・日と比較すると148g、11.8%減少している。

ごみ排出量の推移 (平成17年度は合併後の新一宮市)

年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
ごみ量t	113,653	117,623	123,359	123,599	126,812	120,334	123,222	123,885	121,804	152,220
一人一日g	1,147	1,180	1,231	1,225	1,254	1,181	1,202	1,201	1,179	1,106



## (2)し尿の状況

し尿収集量は毎年減少し、浄化槽汚泥は増加しているが、処理量は横ばいである。平成17年度の総収集量は89,273klで、うちし尿は24,029kl、浄化槽汚泥は65,244klである。

収集されたし尿・浄化槽汚泥のうち84,277klはし尿処理施設により、4,996klは下水道投入により処理されている。

し尿等収集量の推移 (平成17年度は合併後の新一宮市)

年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
総収集量	62,478	61,488	62,368	63,545	61,289	61,767	63,657	63,327	61,724	89,273
し尿	28,522	26,268	25,012	23,570	21,971	20,605	19,541	18,768	17,068	24,029
浄化槽汚泥	33,956	35,220	37,356	39,975	39,318	41,162	44,116	44,559	44,656	65,244

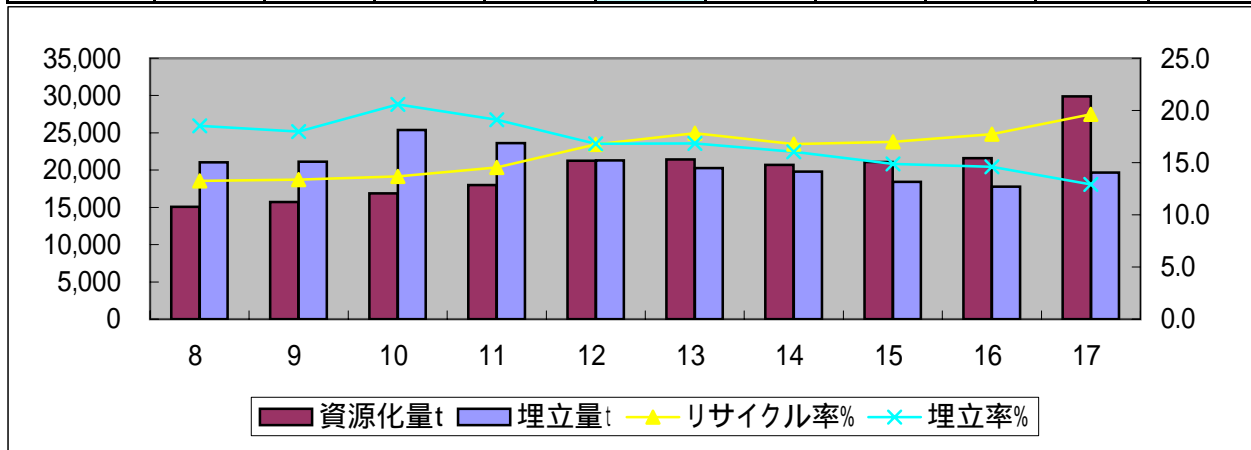
## 2 資源化・最終処分の状況

平成17年度の資源化量は29,901tであり、平成12年度の21,245tと比較すると40.7%増加している。埋立処分量については、平成17年度は19,677tであり、平成12年度の21,309tと比較すると7.7%減少している。

また、リサイクル率は毎年上昇しており、平成17年度は19.6%となっている。埋立率については毎年減少しており、平成17年度は12.9%となっている。

資源化量と埋立処分量の推移 (平成17年度は合併後の新一宮市)

年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
資源化量t	15,059	15,733	16,895	17,982	21,245	21,434	20,694	21,071	21,603	29,901
埋立量t	21,042	21,145	25,380	23,621	21,309	20,272	19,780	18,416	17,771	19,677
リサイクル率%	13.2	13.4	13.7	14.5	16.8	17.8	16.8	17.0	17.7	19.6
埋立率%	18.5	18.0	20.6	19.1	16.8	16.8	16.1	14.9	14.6	12.9



### 3 ごみ減量・リサイクルの取り組み

平成14年度に「一宮市ごみの減量等の推進に関する条例」の施行に伴い、ごみ減量シンポジウムを開催し、市長がごみ非常事態宣言を行い、「いりません！その一言で減らすごみ」をキャッチフレーズに、一人一日53gのごみ減量にチャレンジする「いちのみや530(ごみゼロ)作戦」を展開している。リフューズ(断わる)・リデュース(発生抑制)・リユース(再利用)・リサイクル(再生利用)の4R運動を推進して循環型社会の形成を目指している。作戦の一環として、広報でのごみ情報のお知らせ、環境かわら版の発行、のぼり旗や横断幕の設置、町内会への出前講座などを行っている。

平成15年度は児童・生徒の環境意識の向上を目指し、学校版ISO「一宮エコスクール運動」を実施し、大人から子供まで多くの市民にごみの減量を啓発している。また、独居老人等のごみだし支援と安否確認を行うふれあい収集事業を開始した。

平成16年度からは、毎週日曜日に資源ごみを受け入れる回収拠点を3ヶ所設置、また、廃棄物減量等推進員制度について、組織の充実と活動の強化を図り、各町内でのごみ出しルールの徹底やごみ減量に取り組んでいる。

さらに、最終処分場の延命化と資源の有効利用を図るため、生ごみ資源化事業を11月から実施した。これは、家庭から出される可燃ごみの約3割を占める生ごみを分別収集し、24時間で乾燥処理を行い10分の1に減量するもので、出来た特殊肥料を各家庭に還元し、分別時の調整材として再利用することにより、生ごみを循環資源として100%リサイクルするシステムである。

平成17年7月からは620世帯を対象に月6tの処理を行っている。

### 4 これからの課題・目標

平成17年4月1日に尾西市・木曾川町と合併し、新生一宮市が誕生したが、ごみ分別・収集方法等は3年間で調整し統一することになっている。4Rを基本とし、ごみ減量・資源化を促進するため、指定ごみ袋の導入・有料化や容器プラの全面实施、資源物の排出・回収方法などの見直しを、収集・処理コストや効率面も考慮し進めている。

安全で快適な魅力あふれる環境都市を目指して策定した環境基本計画(平成16年度から平成25年度)で、家庭から出る一人一日当たりのごみ(資源物は除く)について、基準年度(平成12年度)の881gを、平成21年度までに20%削減(704g)を達成し、計画期間中に40%を削減してごみゼロ(530g)の達成を目標としている。平成17年度は749gで基準年度と比較すると15%の削減となっている。

今後とも、ごみ発生量の削減を最優先課題として、排出抑制・資源化・最終処分量削減等や適正処理の推進を図っていく必要がある。